

近赤外-可視-紫外分光器



近赤外から紫外領域をカバーする分光器。試料の配置を変えることで、光源の出力する波長域の透過、反射スペクトルならびに、発光材料のフォトルミネッセンススペクトル（発光／励起）を測定できる。

1. 機器名称 近赤外-可視-紫外分光器
2. 機器分類 光学測定（分光分析）
3. 担当部署 理工学部 ナノ物質工学科（國本研究室）
4. 装置担当者 國本 崇
5. 導入年度 2004年
6. 型式 日本分光（株）
7. 仕様・性能 波長域：260～900nm、光源：重水素ランプ、ハロゲンランプ、
検出器：光電子増倍管
 - ・ 透過／反射／発光／励起の各分光が可能
 - ・ クライオスタットを用いて 15K 程度の低温測定も可能
8. 機器の開放状況（該当する区分を選択して下さい。）
 - ・ 有料で開放している(735 円／1 時間)。
 - ・ 共同利用の場合は無料
9. 利用上の注意点
10. 主な使用事例：単結晶試料の透過測定、蛍光体のフォトルミネッセンス測定。